

県協会主催「国交正常化50周年記念講演会」行う 莫邦富氏「日中交流の地方発信に感じた手応え」



TNC
通信

2022
12月号



知日派ジャーナリストとして知られる莫邦富(モーバンフ)氏を講師に迎え、11月6日午後2時、仙台市内の江陽グランドホテルで開催。当会・横山弥生県副理事長の司会、進行で進められ、佐々木謙・県協会会長の挨拶に続き約60分の講演と参加者からの質疑が行われました。富谷市日中の会員も中山会長をはじめ多くの会員が参加。啓発性のある内容に

“これからは平和と繁栄の50年に” “やれる所から一步一步頑張っていきたい”との感想も寄せられ、また終了後、著作のサイン会や華僑華人との懇談会も企画されました。莫氏からは帰京後「仙台で講演をする機会を作っていただき、ありがとうございました。宮城県日中の皆さんに私の謝意をぜひお伝え下さい。これからも力をあわせてやっていきたいと思っております」とメールをいただきました。

松田副会長が秋の叙勲！

本年度秋の叙勲が発表となり、当会の松田勝幸副会長が、長年の富谷市消防団長としての社会貢献が称えられ「瑞宝単光章」を受賞されました。大変おめでとうございます。

2回目となる、中国語を母語とする5人の青年による日本語発表会をzoom方式で行います。パソコンやスマホによる視聴者を募集しています。応援お願いいたします。申し込み・詳細は横山事務局長まで。

11日14時～「日本語発表会」

寅(トラ)の諺
「寅年に卯(う)の糧を食う」— 寅年の内に、もう翌年の卯の年のために用意していた食糧を食べてしまう。経済の無計画さを風刺するとともに貧困であることの譬えでもある。(俗諺)

『周恩来と日中友好写真展』開幕式に富谷日中からも参加!

11月9日、国交正常化50周年を記念する「桜よ海棠よ永遠に—周恩来と日中友好」写真展が創価学会東北文化会館で行われました。これには孫大剛・新潟総領事や橋本逸男・全国協会副会長、また佐々木県協会会長をはじめ、多くの日中関係者が招かれ、周総理の足跡を振り返りつつ、次の50年への出発の思いを深めました。富谷市日中から松田副会長、水戸理事長、菊地・吉澤・水戸(憲)理事が出席しました。



青年交流の大切さ学ぶ 理事長・水戸雄二

今秋、中国で第20回党大会が行われ、世界に胡錦濤前国家主席が途中退席した映像と共に様々な憶測が流れた。私もショックを覚えた一人。実は初訪中は1985年1月、創価学会青年部と中華全国青年連合会の初めての交流で、ホストが胡・全国青連主席であった。人民大会堂での会見と会食は当方が7人の小規模なので、会食も1テーブルを囲んだ親しく、にぎやかな席であった。相互の青年交流を確認しつつ、初めての茅台酒で杯を重ねた。10日間であったが全青連国際部の案内で北京、広州、深圳、上海を回り、文革後“四つの現代化”を目標にする「青年の国・中国」を感じた。

特に経済特区モデルとして深圳市では建設途上の深圳大学も訪問(写真)。「普通語を話そう」という標語に、広大な多民族の中国を改めて実感。また小さな漁村は豊かになり日本企業も多く受け入れていた。劇場は“寅さん”も上映、夜は自由行動しDJ風の歌謡ショーで「昴」をリクエスト、化粧したバンドとも対話できた。政情の違いを超え青年同士は交流し対話し合える。そして新たな平和の文化が創造されよう、と今でも思える。お互いを分断の眼で見てはならない。日本も中国も世界の大国なのだ。



スピーチコンテスト 東北大会行う

県協会青年委員会では10月30日、日立システムズホール仙台で開催。朗読部門(19人)とスピーチ部門(11人)に分かれ全国大会出場を競いました。

『親善おせち』楽しむ一女性委員会で

県協会女性委員会では11月26日、国際センターで宮華女と協力し、日本と中国のお正月料理を作り、食する企画を実施。富谷市日中からも参加し、交流しました。

正常化
50周年
私の想い